

様式第 3 号(第 9 条関係)

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附属機関等の名称	令和 7 (2025) 年度 みよし悠学カレッジ推進会議		
開催日時	令和 7 (2025) 年 9 月 4 日 (木) 午前 1 0 時 3 0 分から午前 1 1 時 3 0 分まで		
開催場所	図書館学習交流プラザ「サンライズ」2 階 多目的室		
出席者	<b>【委員】</b> 廣田 匡則、佐野 鎮代、田中 征子、佐々木 憲夫、 丹下 玲子 <b>【事務局】</b> 橋本生涯学習推進課長、秋田生涯学習推進課副主幹、 後藤生涯学習推進課主事		
次回開催予定日	令和 8 (2026) 年 2 月		
問合せ先	みよし市教育委員会生涯学習推進課 後藤 電 話 0561-34-3111 ファックス 0561-34-3114 メール gakushu@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下欄に掲載するもの	・ <u>議事録全文</u> ・ 議事録要約	要約した理由	
審議経過	協議・報告事項 1 令和 6 (2024) 年度悠学カレッジ事業報告 2 令和 7 (2025) 年度悠学カレッジ事業の計画概要		

## 会議録

<p>典礼（秋田副主幹）</p>	<p>本日は大変お忙しい中御出席をいただきまして誠にありがとうございます。ただいまから令和7年度第1回みよし悠学カレッジ推進会議を開催いたします。</p> <p>初めに礼の交換を行います、恐れ入りますが御起立をお願いいたします。一同礼。</p> <p>なお本日の会議は公開とさせていただきます。傍聴の御希望の方はみえませんでしたので御承知おきをお願いします。それでは次第に基づきまして会議をすすめさせていただきます。はじめに生涯学習推進課長の橋本がご挨拶申し上げます。</p>
<p>橋本課長</p>	<p>4月から、こちら生涯学習推進課長として参りました橋本慎一郎と申します。令和2年、令和3年にもおりましたので、この会のこととか、生涯学習に関しては、その部分の経験がございます。当時はコロナ真ただ中で緊急事態宣言が出て、閉館などがありましたので、正直コロナの対応ばかりという状況でしたが、そんな中でも生涯学習講座やいろんな活動をマスクをしたりしながらやっていたりそんな経験を踏まえながら、現在コロナが明けてようやく本来の形に戻って、本当に嬉しく思っているところです。</p> <p>本日は御多忙の中、悠学カレッジ推進会議に御出席いただきましてありがとうございました。</p> <p>この会議は、みよし市生涯学習推進基本計画の基本理念にもあります、「学び合い、触れ合い、支え合い、人と人が繋がる生涯学習」を実現するために、大学や文化協会、いきいきクラブ、産業団体、受講生の代表の皆さんにお集まりいただいて、幅広い意見をお聞きするために年2回開催するものになります。</p> <p>他市の生涯学習講座や、イベントの状況を調査したり、あと講座を受けられた方の意見等を聞きながら、いろんなアイデアを出しながら、企画をしているところではありますが、なかなか今は社会情勢、生涯学習の概念が始まった頃に比べると、やはり皆さんの生活スタイルとかも変わって、定年が延長したりだとか、核家族化してるとかそういったいろんな状況がかなり変わって来ていると思いますので、なかなかこちらが思ったようなターゲットの方が受講していただけないとか、他市町でいい企画だなと思ってやるけど、意外と集まらないとか、そういった状況もありますので、また皆さんのご意見いただきながら、市民の方の生涯学習の支援として、手助けが出来ればなというふうに、私どもは考えておりますので、皆さんの御意見いただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。</p>
<p>事務局（秋田副主幹）</p>	<p>それでは、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。本日は今年度最初の会議になりますので、簡単に自己紹介したいと思います。</p>

廣田委員	<p>委員名簿を添付させていただいておりますので、こちらの名簿順に行いたいと思いますので、恐れいりますが廣田委員からお願いします。</p> <p>昨年度に続きまして2年目となります、東海学園大学の地域連携担当としてこちらの会議に参加させていただいております。大学という教育機関の立場から、みよし市の取り組みを合せて、大学のリソースをお渡しして発展出来るような取り組みに繋がれるといいなと思っておりますので引き続きどうぞよろしくお願いします。</p>
佐野委員	<p>佐野鎮代と申します。みよし市文化協会で長い間副会長としてもやさせていただいております。よろしくお願いいたします。和紙ちぎり絵の講座でも大変お世話になっております。</p>
田中委員	<p>みよしいきいき連合の田中征子と申します。いきいきクラブは65歳以上の高齢者を集めて、生涯の学習及び芸能発表会から一人一人の個人に応じた発表会を開催しております。たくさんの講座がある中に、90歳の方がお一人参加の申し込みがあったと、資料を拝見いたしまして、本当に素晴らしいことだなと思っています。いきいきクラブも皆さんラストライフを楽しんでおられますので、こういう講座も参加出来たらいいなと思いました。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
佐々木委員	<p>受講生代表の佐々木憲夫と申します。今年度も引き続きこの委員をやらせていただくということになりました。</p> <p>退職した後ここで英会話、パソコン、スマホの講座を勉強させていただいております。それから日本画の講座がありまして、そこで日本画を勉強し、その後の引き続き日本画勉強させていただいて、文化協会の絵画部会に入れてもらって絵画部の副理事になりました。ここでいろんな沢山のことを勉強させてもらい、またみよし市の皆さんがここで楽しく勉強して頂けるように、お手伝いしたいと思っております。</p>
丹下委員	<p>同じく受講生代表の丹下玲子と申します。</p> <p>10年以上前からこちらの講座にいろいろ参加させていただいて、いろいろと私の人生において豊かなものになっておると思います。よろしくお願いいたします。</p>
事務局（秋田副主幹）	<p>ありがとうございました。それでは、事務局を紹介させていただきます。課長は先程ご挨拶させていただきましたので、残りのメンバーが自己紹介いたします。</p> <p>申し遅れましたが私は、生涯学習推進課の秋田と申します。</p>
事務局（後藤主事）	<p>同じく生涯学習講座を担当しております後藤と申します。</p>

事務局（秋田副主幹）	<p>それでは、次第３に移りたいと思います。「みよし悠学カレッジ推進に関する要綱」第４条第１項に会議の運営に関する項目があります。「推進会議の参加者は、その互選により推進会議を進行する座長を定めることができる。」となっております。座長の選出を行いたいと思います。お願いするにあたり、御意見等はございませんでしょうか。</p>
佐々木委員	<p>事務局に一任するというのでしょうか。</p>
事務局（秋田副主幹）	<p>ありがとうございます。事務局一任というお声をいただきましたので、僭越ながら事務局から案を出させていただきます。座長には大学等の代表であります、廣田委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
佐々木委員・他委員	<p>異議なし。（拍手）</p>
事務局（秋田副主幹）	<p>ありがとうございます。御異議も無いようですので、事務局案のとおり、座長を廣田委員にお願いさせていただきます。恐れ入りますが、正面の席へご移動をお願いします。それでは議事に入りたいと思います。議事の進行は要綱に基づき座長にお願いすることとなりますので、廣田委員に議事進行をお願いいたします。</p>
座長（廣田委員）	<p>改めまして、座長として本日議事進行を務めさせていただきます。議事が円滑に進むよう、皆さまの御協力をよろしくお願いします。</p> <p>本日の議題は、（１）令和６年度悠学カレッジ事業報告、（２）令和７年度悠学カレッジ事業の計画概要となっております。はじめに議題１について、事務局から説明をお願いします。</p>
後藤主事(事務局)	<p>それでは、お手元の資料１をご覧ください。</p> <p>令和６年度悠学カレッジ事業報告として、生涯学習講座の実施状況について、説明させていただきます。</p> <p>本市の講座開催については、生涯学習推進基本計画に基づき、多様化する住民ニーズや、社会情勢の変化に対応した生涯学習講座を、生活創造、国際理解、情報通信の各分野で、春夏、秋冬、新春の３期に分け、開催しています。</p> <p>なお、大学との連携公開講座につきましては、昨年度は、春夏講座として、３講座開催いたしました。</p> <p>資料の左側の表は、期ごとの講座数、受講者数をはじめとした講座の実施状況となります。</p> <p>この表の上から４つ目の表に「全体」と書かれた表がございます。令和６年度における講座数は年間で１７７講座の開催となりました。</p> <p>また、申込者の数につきましても、令和５年度２,３０１人から令和６年度は２,５２３人となり２２２人の増加、受講者の数</p>

	<p>は、令和５年度１,６３２人から令和６年度は１,７４５人となり１１５人の増加となりました。</p> <p>次に、資料右側上段の年代別申込者数と書かれた表とグラフをご覧ください。</p> <p>５０歳代が２８．４％と最も多く、次いで６０歳代が２７．４％、７０歳代が１８．８％となっており、依然として高齢者の受講割合が高く、５０歳以上の年齢層が、全体の約８割を占めている状況となっています。</p> <p>次に、その下の行政区・地区別申込者数の表をご覧ください。本市は２５の行政区があり、地域で区分すると「おかよし」「きたよし」「なかよし」「みなよし」に分類されます。</p> <p>行政区ごとの申込人数は、表のとおりとなりますが、申し込みが多かった行政区は、三好丘の１０．４％が最も多く、次いで新屋７．９％、三好丘旭７．５％の順となっています。</p> <p>また、一番下の表は、地区ごと及び市外の申込人数となります。おかよし地区が極めて高い４４％を占めており、サンライズのある、なかよし地区の２５．９％を大きく上回っている状況となっています。</p> <p>簡単ですが資料１の説明は、以上です。よろしくお願いします。</p>
座長（廣田委員）	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは質疑に入りたいと思います。只今の説明について、御意見、御質問等ございましたら、どうぞよろしくお願いします。</p>
佐々木委員	<p>左側の講座の集計の中で、生活創造のところなんですけども。申し込みの方の４割の方が希望通り受講できてないという状況で、約６割の方が受講者になられたのが令和６年ですから、今年の春夏講座が７月に終わりましたので、その辺りは少し改善に向かっているのか、何か取り組みをしていただけたのか。資料２の方の関連でも結構ですが、特に生活創造が希望通りにいかない方が多いように思いますので、御検討いただければと思います。</p>
後藤主事(事務局)	<p>ありがとうございます。令和７年度、春夏講座の実施状況になりますが、全体の講座開催数が５５講座、申込者数の総人数が３分野に合わせて８６６名の方にお申し込みいただいております。人気の高い講座につきましては、回数を増やしたり、開催場所を変え、来期に持ち越してもう一度開催するなどの対策を講じるなど、全体のバランスを見て運営しております。ですので、よかった講座や、受講されて楽しかった講座などはぜひ、講座最終回にお願いしております、受講生アンケートに記載頂けますと、今後の講座運営の参考にさせていただきます。そのような皆様のニーズを見ながら、引き続き進めて参りたいと思います。</p>
橋本課長(事務局)	<p>補足になりますけれど生活創造だとやはり料理だとか、手で物を作るとかが主体になっています。やはり関心が高いというのと、やはり場所的なもので、料理だと当然人数が限られてしまっ</p>

	<p>て、どうしてもお断りする確率が高くなっています。その点、座学ですと申し込みが多ければ定員を増やしたりという対応が出来ますが、料理ですと、調理室の座席の数で締めてしまうので、なかなか全員の方に受けていただくのは難しいというのが現状です。</p> <p>さらにおかよし交流センターが出来て、そちらにも調理室があります。10月にオープンするみなよし交流センターにもありますので、そういったところで機会を増やしたいと考えております。なるべく申し込みされた多くの方に受講していただくのが理想だとは思いますが、どうしても生活創造がやはり興味深いというなかで、場所的な制約などでお断りしている状況が、現状このような形になっています。</p>
佐々木委員	<p>抽選で落ちた方は、次回は優先度を上げてもらおうとか、工夫していただくと、時間はかかるかもしれませんが、何年かのうちに受講出来るようになる仕組みを考えていただくといいのかなと思います。</p>
橋本課長(事務局)	<p>当然同じ講座を続けて申し込まれる方もみえますので、何か配慮できればいいですけど、今はもう完全に抽選でやっていますので、その辺はこちらもなかなか課題だということだと思います。</p>
佐野委員	<p>実際が実際に講師をやらせていただいて、落ちた方が次回申し込んでもダメだったということは実感しています。だからといって毎度、同じ講座を開講するということは出来ないし、いろんなことを含めて、そういうところが引っ掛かります。何かいい方法があれば。</p>
橋本課長(事務局)	<p>そういう意味でいうと、本来は「春夏」しかやらない予定だったはずだけど、定員を超えたので「秋冬」や「新春」でやるという形にやっているんですが、抽選の段階でそこをどこまで配慮するのかというのが、なかなか難しいところがあります。少し参考にさせていただきます。また担当で対応出来るかどうか、場所を増やしたことで、全てフォローできればいいのですが、全てがそうではないと思いますので、それを踏まえて検討させていただきます。</p>
秋田副主幹(事務局)	<p>先程、佐々木委員からご質問いただきました、速報値ということで、数字の話が出ていましたので、春夏講座の生活創造の分野に関しまして、申込者数が531名の方に申し込みいただき、実際にご受講いた方が365名の方ということになりますので、69%ぐらいのかたが受講いただけているということをお伝えいたします。</p>
座長（廣田委員）	<p>今のお話の中で、申込者に対して、受けられない人も何人かということがお話ありましたが、みよし市民の暮らしの充実であったりだとか、活性化につなげるっていう意味合いでは、今後</p>

橋本課長(事務局)	<p>受講者の人数を増やしていきたいということなのか、あとは年代が先程 50 代、60 代、70 代の順で続いていましたけど、もっと若い世代の方に来ていただくように取り組みをしていきたいのか、それに対する対応を何か考えられていることがあれば教えていただきたいです。</p> <p>当然生涯学習ですので基本的に 18 歳以上の方に広く学ぶ機会を提供するっていうところが本来の筋なんですが、なかなか主婦の方がカルチャースクール的な感じで受けたらどうか、あと定年を迎えた方が、自分の余暇を過ごしたりどうか、更に学びを重ねたいというところで受けていただいたんですけど、どうしても今の社会情勢的に、女性もかなりの方が就労をされているというデータも出ていますし、定年延長だとかで、今までのように 60 歳で、もう手が空くという形ではないという状況があります。受講生の全体数が下がってるところがあるので、こちらとしてはいろんなプログラムを用意して、本当に広い年代の方に、物によっては当然スマホの講座とかだと高齢者の方がターゲットだったりしますが、すべてトータル的に何か計画してやるというわけではない。市としては誰でも、サンライズに来れば勉強できる、体験できるを目指しているのが一応理想であります。</p>
後藤主事(事務局)	<p>担当の方から 1 つ追加でお伝えさせていただきます。この後、今年度の実施計画でお話させていただきますが、今年度から、学生の受講可能な講座を少しずつ増やしておりまして、まだ募集前にはなりますが「新春講座」で、中学生の親子向けの AI を用いた講座とか、親子を対象としたクッキーづくりだとか、そういった若い方から、お料理や、工作以外に、ご自身で自ら体験していただくっていう意味合いで、こちらは学生向けではないんですけども、落語の入門講座なども企画させていただいております。まだ募集前ではありますが、その辺り含めて新しいものを取り入れつつ、進めてはおります。</p>
座長（廣田委員）	<p>昨年度参加させていただいた時に、何か新しい取り組みという話がある中で、リモートを使う講座ができないかという話があがって検討をしてみますということで、事務局さんはおっしゃっていただいたんですけども、何か回答はございますか。</p>
後藤主事(事務局)	<p>こちらについても前回ご意見いただいたと思います。講座の企画担当とも共有しまして、そういった講座をできる講師がいるのかと、受講生のニーズとしては、やはり現地に来て手ほどきを受けたいという方も一定数いらっしゃる中で、もちろんオンラインが主流になっていますから、そういったお声もいただきますが、比重として、まだ現地で受けたいというお声がたくさんあると聞いています。ニーズとのバランスと、それに対応できる講師がいるのか。いないのであれば、新たに探して欲しいというところで、近隣市町の状況も見ながら検討を引き続き進めているところです。</p>

佐々木委員	<p>そういったところも含めて新しい形で進めていく必要があるなと考えております。</p> <p>2つ申し上げたいと思います。</p> <p>最初におっしゃられた、どの年齢層の方を方針として対象にしますかということ。もちろん退職したりした私達みたいな方を対象として教えていただけるとありがたいんですけども、前回の会議で、小学生から参加できるこういう講座を増やしていきますというのが方針で掲げられていて、さっき中学生のお話を少ししていただんですけど、小学校、中学校や高校生、そういう方の意見を聞くとすると、学校の先生にヒアリングをされて、どんなふうなことを学生向けに講座を企画するといいいのか、時期も普段は学校があるから、長期休暇の時に集中講座みたいなものがあるといいんだろうと思うんですけども、やはり、学校にヒアリングされて企画された方がいいのかなと思いました。</p> <p>オンラインの講座ですが、やっぱり料理とかそういうものは現地現物だと思うんですけどね。大学との連携とか、公開講座みたいなものはオンラインで沢山の方がここまで来なくても聴講することができるというのが、大変いいなと思って。以前私も受けたんですけど、ZOOM ミーティングでホストもちゃんとやれるように教えてもらったんですけど。受講者だけだったらそんなに難しいくない。教えてもらえばできると思います。1人の先生で沢山の方に聞いていただくような講座は是非オンラインを進めていただけるといいなと思います。ぜひご検討お願いします。</p>
座長（廣田委員）	<p>今の佐々木委員からお話で、小学生とかにアンケートという話ですが、全くそのとおりで私達大学においても、受験生を集める場合、何に基づいてどういった策を打つかということがすごく大切でして、要はサービスを提供する側、講座を組み立て市民の方へ案内するっていう流れですけども、要はこちら都合ではなくて、受けた方がどういったニーズあるかっていうことを調べたうえで、それに適した講座を探して提供するっていうことが、より満足度が高められる策になると思います。</p> <p>全てがそうではないですけど、市民の方のニーズをくみ上げて、そこを把握してもらってということはすごく有益なことではないのかなと思いますので、是非進めていってほしいと思います。</p> <p>あとはいかがでしょうか。</p>
佐野委員	<p>いきいき代表の方が来ていただいているから、お聞きしたいんですけど、私も福谷のいきいきの方は一致団結して、いろんなことをやってらっしゃる事、百も承知です。忙しく、エネルギーのある方が本当に沢山いらっしゃる。私も行ってびっくりしました。しかし、ここの講座をどれだけ受けられているのかというと、寂しいもので。前のいきいきの代表の方にもお話ししたことがあるんですが、是非そういう方達が、少しここは敷居が高いイメージを持っておられて。こちらに気を向けていただけるよう</p>



	<p>な、何か方法があれば、いつも憩いの家で講座を受けてと話をするんですけれど。</p>
田中委員	<p>そうですね、そのような方はいっぱいいらっしゃるって、この生涯学習だと、個人的活動だと、皆さん運転免許がないので、そこにたどり着くことが出来ない。だから憩いの家で、先生に来ていただいて、皆さんが楽しむという形をとっていますが、個人の講座になると、そこまでの足がない。</p>
佐野委員	<p>よく現状はわかります。先生がいらっしゃるの大体は体操とかそういう関係ですよ。そうでなくて、何かやりたいと思った時に一言声をかけていただいだけでも違うのかなと思います。</p>
田中委員	<p>そうですね。こんなに沢山あるからやりたい方もいらっしゃるかもしれない。</p>
佐野委員	<p>毎回生涯学習講座の冊子を持って行くんですけれど、皆さんが目を通してくださる方がどれくらいいるのか。</p>
田中委員	<p>引きこもりの方が多くなりまして、そういった方達に「こういうのがあります。」と声をかけて、外に出すようにこれから勧めていきたいと思っています。</p>
丹下委員	<p>それぞれの人数、サンライズに來れば誰でも学べるというところで、私はコアになってしまうかもしれないんですが、よく語学で「初めての」と謳っているのがあるんですが噂や、私自身からの体験でもあるんですが、「初めてのフランス語」というので、受講出来ると思って、来たんですけれど、全然内容が初めてのではなくて、「アン、デュ、トア」から始まると私は思っていたんですけれど、全然文章から始まって、「えっこれが初めてのな」と、必死になってカタカナを書く状態で。なので昨今ですと、「初めての英語」だったかな。それを受講された初老の方が、行ったところ「もう全然レベルが違う。」初めてではなかったんだということで、1回で辞められたという噂を聞いたりしたので、「初めての」と謳うんでしたら、本当に「初めて」の方むけで、初級とも少し差があってもいいんじゃないかなって。そこに皆さん殺到されて申し込みされるなら、細分化して、少しずつレベルをあげていくとかされたほうが、途中で辞められる方が少ないのではと。</p>
橋本課長(事務局)	<p>そこがちょっとこちらとしても、悩ましいところで、そういう意味で参加したんだけど、逆のことを言われる方もいらっしゃるって。「初めての」は初級だと思って来たら、本当の初級で、ちょっとと言われる方もみえて、バランスが難しい。今は、当時に比べれば段階を分けてやってはいるんですけど。電話でレベルを聞いてくれる方もみえるんですが、どれぐらいのレベルというか経験値を聞いて、そうすると「ちょっと簡単すぎるかな」とかい</p>

	<p>話もしているんですけど、やはりどうしてもそれぞれの受け止め方も違って、具体的に本当に数値で表せばいいんですけど、なかなかその辺が課題で、こちら苦労しているという現実です。</p> <p>当然、丹下委員のおっしゃることはもっともだと思います。常に講座を企画する担当も先生と相談しながら、受講生で当然差があるので、レベルの差に合わせてやっていただいていると思いますが、そうするとレベルの中で上の方が不満をもたれる。というのも現状であって、意見が分かれるということもあるので。</p> <p>階級で分けてわかりやすくっていうところは徐々に変えてきているというのが現実です。中級と言っても中級がどこの定義なのかとかいうように。先日も、海外に少し勤められていた方が帰国されて、講座はどれぐらいのレベルですかと聞いて来られた方も実際います。それをどう発信していくのが課題だと感じています。</p> <p>トータルもそうですけど、いろんな方に知ってもらう発信の仕方がここだけじゃなくてみよし市全体の市の情報もそうですけれど課題だと常々、感じています。</p>
丹下委員	<p>ネット関係の講座には確かフローチャートがあったと思うんですけど、語学もそういう感じで「会話」「センテンス」がわかる方は大丈夫みたいな。</p>
橋本課長(事務局)	<p>先生（講師）によっては案内チラシのところにわかりやすく例を書いている方もいます。なるべくわかるように情報をお伝えしたほうがいいと思います。毎回講座を受けられた方の不満や意見を聞きながら、なるべく伝わるように、いろいろ工夫はしておりますので、今後もそれを続けていきたいなと思います。</p>
座長（廣田委員）	<p>ありがとうございます。</p>
佐野委員	<p>それから今、小学校、中学校の子ども達の実地の意見をということで、北中学校では「文化講座」というのがありまして私も従事しておりますし十何年やっているんですけども、みよし市内の中学校もいろいろ地域の関係でやっていますが、ご存じかとは思いますが、令和8年、9年。2年後ですか、文科省の方で地域密着型の話。私達も手探りの状態で動いていますけれども、課長はその辺の話はわかっていらっしゃると思いますが、先生・生徒のお話を聞きできたら良いかなと。</p>
橋本課長(事務局)	<p>部活動の地域移行ということですよ。</p>
佐野委員	<p>そうです。課長がおっしゃったことも取り入れるにはその辺りのお話もされたらなと思います。</p>
橋本課長(事務局)	<p>小学校の文化部分の受け皿というか、学校に行って部活動として指導を担ってもらえるような方が、生涯学習の団体の中からいるというのが、今の理想ですが、文化協会が中心となって、こん</p>

佐野委員	<p>なことをやると子どもが喜ぶというのを用意して出すんですけれど、意外と応募が無かったりということで、なかなか苦慮しています。</p> <p>今年は文化協会の講座を、サンライブ祭りでやって大勢の方が来ていただいて、私も本当に充実感がありました。生涯学習では勉学が中心だから、こういう講座を受けようと思うと、時間とか、塾に行くとか、今もリモートの話が出たんですけれど、やはり難しい。土日は子どもたちも予定があったりで夏休みが一番よかったですけれど。全ての兼ね合いで、子ども達と先生方とPTAで上手く合わない感じがしました。</p>
橋本課長(事務局)	教育委員会も含めて全体で考えてはいます。
佐野委員	ありがとうございます。
座長（廣田委員）	ありがとうございます。他はいかがでしょうか。
田中委員	私がみよしともいきスポーツクラブを大学でやっているのを見ると、いろんなものをやっているなと感じて、私も行ったことがあるんですけれど。
座長（廣田委員）	ポールウォーキングですね。
田中委員	凄いことをやってらっしゃるなと思って。
座長（廣田委員）	今回、おかよしの方で、 <u>これ（ポスター）</u> が来たんですね。これは主催者が「みよしともいきスポーツクラブ」で動いていらっしゃるんですか？私はここへ受講しようと思うんですけれど。
座長（廣田委員）	厳密に言うと私の担当している地域連携と、ともいきスポーツクラブとは管轄が分かれていて。地域連携という意味合いでは密接に関係はしているので、情報は汲み取ろうとは思っています。
田中委員	わかりました。
座長（廣田委員）	あとはよろしいでしょうか、 では続きまして議題２の、「令和７年度悠学カレッジ事業の計画概要」につきまして、事務局の方から説明お願いいたします。
後藤主事(事務局)	<p>それではお手元の資料２に基づきまして、令和７年度みよし悠学カレッジ事業の計画概要について説明をさせていただきます。</p> <p>この事業は「第３次みよし市生涯学習推進基本計画」の基本理念『学びあい ふれあい 支えあい 人と人とがつながる 生涯学</p>

習』に基づき、講座開催に取り組んでいます。基本方針としては、次の6つの方針を掲げています。

市民のニーズに応じた講座を開催するにあたっては、引き続き「公開」「生活創造」「国際理解」「情報・通信」の各分野で実施します。また、生涯学習になじみのない人でも気軽に参加できるように入門から初級、中級、応用など学習経験に応じた講座内容を企画します。

なお、以前より御意見を頂戴しております、オンライン講座につきましては、受講ニーズや講座内容、新規講師の開拓も含めて近隣市町の状況も注視しながら引き続き検討してまいります。

続いて、(3)(4)にありますように、勤労者に配慮した夜間講座、高齢者、障がい者を優先した講座、社会の変化に合わせた講座企画に取り組むとともに、ホームページや広報みよし、公式LINEなどを活用した情報発信に努めていきます。

また、今年度より学生も受講可能な講座を設定しています。

また、子育て中の人であっても講座に参加できる環境を整えるため、託児事業の充実に努めます。

続いて、2番の講座開催事業につきましては、本年度開講予定のものも含めて記載しています。市民の方々が身近な場所で気軽に参加していただけるよう、引き続きサンライズだけでなく、おかよし交流センターや来月開館予定のみなよし交流センターでも講座を開講していく予定です。

また愛知教育大学との連携公開講座を今年度も実施し、大変好評いただいています。

秋冬講座の内容については、一部抜粋ではありますが、(2)生活創造から(4)情報通信講座に記載のとおりです。

なお、秋冬講座については、9月2日から(61講座)開講しておりますが、まだ定員に空きのある講座は、引き続き追加募集を行っているところです。詳細は、市のホームページをご確認ください。

次に、3番の生涯学習サービス事業については、引き続き、「調査研究」「情報提供」「支援」の3事業を行ってまいります。

調査研究では、受講終了後、すべての講座において、アンケートを実施し、その結果を新規講座等の企画運営に役立たせています。アンケート結果では、受講目的としては「技術、知識、教養を高める」「生活や趣味に生かす」という回答を多くいただいております。満足度においては、全体の98%の人から「満足できた」「大体満足できた」との回答をいただいております。情報提供では、関係各所、市内企業への講座案内及び情報誌の発行、市の広報誌、ホームページ、公式LINE等を利用して、情報発信に努めています。

最後に、各拠点における生涯学習講座の状況についてです。受講生のアンケートでは、「参加が便利のため、おかよし交流センターでの開催を増やしてほしい。」、「おかよし交流センターが自宅から近いので参加できた。」、「サンライズの講座は

	<p>バスを利用しないといけないが、おかよしは近くて気軽に参加できる。」などの意見をいただいています。特におかよし交流センターでの開催について好評の声を多くいただいていますので、引き続き開催を継続していきたいと思っています。</p> <p>サンライブ以外での講座開催は、受講者数を増加させることや受講生の利便性向上など観点からも大変重要であると考えています。また令和7年度の新春講座及び令和8年度からは来月開館予定の「みなよし交流センター」においても、少しずつ講座開催を予定しています。</p> <p>説明は、以上となります。よろしくお願いします。</p>
座長（廣田委員）	ではこの件につきまして御意見、御質問等ある方よろしくお願いします。
佐々木委員	左側のところの、大学との連携講座の話ですが、今回は5月と7月にやっていただいて、この時の申し込みの方と受講の方はどんな方だったんでしょうか。
後藤主事(事務局)	どちらも定員30名ということで、半数近い方に御参加いただいております。毎年、講座内容の企画内容は変わっていくんですけども、関心の高まりなどから、引き続き各大学と連携して講座を開催していきたいと思っています。
佐々木委員	大体希望の方は皆さん、受講出来たということですか。
橋本課長(事務局)	定員に達していないというのが現状で。やはりPR不足があるのかなと分析はしています。
座長（廣田委員）	他の御意見はどうでしょうか。
佐々木委員	右側の生涯学習サービス事業という大きな3番のところで、支援ということで受講者への総合的なアドバイスということを書いていただいて、これは大変よいことだと思います。具体的にはどんなアドバイスを受講者にしてくださったとか、事例があれば、それをアピールしてもらおうと、皆さんがここに来て勉強されるのでもと思われると思うんですけど。
後藤主事(事務局)	講師の先生と受講生でやりとりをしていく中で、困りごと等、解消されているケースは多いんですが、ひとつは、パソコンの講座を受講された方で、講座終了後にお問い合わせを事務局の方にいただきまして、「継続してこの先生の講座を受けたいんだけど、どういうふうにしたらいいのか。」「こういった講座を受けられるところはないのか。」そういったお問い合わせをいただいて、先生にお繋ぎしたというケースはありました。
橋本課長(事務局)	講座が終わった後に、先生と当然顔見知りになっていく中で、講座とは違う部分でも、いろいろ情報交換して普段の生活に助か

	<p>るような悩み事、講座に関することの疑問をぶつけて解決したりということで、コミュニケーションを取ってもらっているところかなと思います。</p>
佐々木委員	<p>いろいろ困ったことを先生（講師）との仲立ちをしてくださっているということですね、いいことです。</p>
佐野委員	<p>基本的には受講生と講師との電話は一切ダメだということですか？</p>
橋本課長（事務局）	<p>基本的には個人でのつながりはご遠慮いただいています。講座の後の時間とかで質問等していただくような形で。</p>
佐野委員	<p>私は必要があって事務局の了解があればいいよと伝えていきます。</p>
橋本課長（事務局）	<p>文化協会の人が講師の講座の時は、「どうぞ文化協会に入ってみたらどうですか。」という話は個別にさせていただいたこともあります。そういう連携も、なるべく繋がっていくといいのかなとは事務局としても思っています。</p>
座長（廣田委員）	<p>ありがとうございます。他いかがでしょうか。</p>
佐野委員	<p>みなよし交流センターの予定は進んでいますか。アンケートでいろいろ書いた覚えがあるんですけど。結果がまだ何にも来ていないので。</p>
秋田副主幹（事務局）	<p>みなよしの開館に向けてということですか。予定は10月開館です。来月予定どおり開館を迎えます。</p>
橋本課長（事務局）	<p>内覧会があってどなたでも中の見学が出来ます。9月21日ですね。先だってうちの講座担当も入れてもらって視察をして、どんな感じか確認はさせていただいています。</p>
座長（廣田委員）	<p>その他いかがでしょうか。 ひとつ質問なんですが、3番の生涯学習サービス事業の調査研究に関わるとか、ここで先ほどの満足度を、測ってもらったりだとかの話があったかと思うんですけども。この満足度とアンケートを取った後に次年度どういう講座をやっていくかとかに活かされているのか。次どういう講座にするのか、例えば新しく追加したり、辞めたり。割としっかり精査されているような感じなんでしょうか。</p>
橋本課長（事務局）	<p>予算がかかわるものになりますので、ちょうど今、予算編成中で、はっきり言ってこの段階でもう来年8年度にどんなものを作るかは大まかには組んでいます、枠だけとってもらって、細か</p>

座長（廣田委員）	<p>いところはこれから詰めていくという感じです。具体的に、いつということではなくて、その都度その都度担当レベルで話し合っ て「どういう講座がいいのか」とか。年3回ありますので。</p>
後藤主事(事務局)	<p>中身は変わっているんですか。</p> <p>大幅に変えています。「情報通信」とか語学の外国語の種類で すとかはあまり変動はないですが、「生活創造」につきまして は、人気のある講座は継続しているものもありますが、ほぼほぼ 講座のジャンル以外の部分で、中身の詳細の部分はメニュー等を 毎期一新しています。</p> <p>受講アンケートを頂戴した後に、私が必ず目を通しますので、 アンケート中で頂いた御意見等は、各講座の担当にフィードバック をして、改善出来るものは早急に改善するように指示をしています。</p>
座長（廣田委員）	<p>情報通信講座で、AI の講座について1年過ぎて、今の話のと おり情報通信は大幅には変わってはいないかなとは思いますが、 例えばAI のところは、今はAI だけでは成り立たない時代 でありますので、「AI の使い方を習いました」それって何に 活かすかって話につながっていくんですね。例えばこの中で見 るとそのAI を使って文書を作ったものをInstagram で投稿す るとか。他の講座との連携、合わせ技でより楽しい、広がりが出 てくると今見てて思いました。</p> <p>ニーズがあるかどうか、技術的レベルのお話の問題もある。単 純に技術を習って終わりではなくて、いろんな組み合わせで、も っとバリエーションがあることで、もっと世界広がる。そういう ところに繋げることが出来ると思います。他のカテゴリーもそう かもしれないですが。情報とか通信関係にはちょっと知識があっ たので、本筋から外れたところを今お話してますけども、このよ うな組み込みかたの講座もあり得るのではないかと思います。</p>
後藤主事(事務局)	<p>補足ですが、秋冬講座には間に合わなかったのですが、新春講 座にてAI を活用した学生向けの講座というのを準備しておりま して、大学の講師の方を招いての企画を進めておりますので、ま た情報が出ましたら。学生限定になってしまいますが、そのよう な企画も進めてはおります。</p>
座長（廣田委員）	<p>ありがとうございます。他御意見、いかがでしょうか。</p>
佐々木委員	<p>ひとつ前の議題に戻ってしまいますが、地域別・地区別申込率 について実際にこのサンライズのあるなかよし地区が25.9%で 申込されていて、この前お話を聞いて、人口は約4割がこのなか よし地区に住んでおられて、申込者の少ない所は、先程言われた 敷居が高いところはあるんでしょうか。</p>

橋本課長(事務局)	<p>三好丘の方々が多い中で、気楽にもっと受講出来ますよというような敷居を低くするようなアピールも、考えた方がいいのかなと思ったんですけど。</p>
	<p>市としての受けとめとしては、あまり地区的な問題は言えないですが、なかよし地区だと憩いの家があったり、公民館があったりするけど、三好丘は開発で出来たところなので、集まる集会所はあるんですけど子どもが来たりだとか、お母さんが来たりだとかで、ちょっとあんまり大きくない。やっぱり旧来の集落のところは、公民館があって憩いの家があって、児童館があってという、地域の差がどうしても出て、そうするとやっぱりおかよしの方は集まる場所がないので。意識が高いというのも当然あるとは思いますが、どうしてもそこが集中するのではと考えています。</p> <p>逆にさっき言われた憩いの家で自分たちでコミュニティーをつくって活動されている方もたくさんいるので。公民館でやっている方も沢山います。</p>
佐野委員	<p>付け加えさせていただくと、11月のいきいきの会で皆さん集まられる際に、地域それぞれの役員にぜひ「こういうのがありますよ」と「ひとこと」言っていただだけで。「そんなの知らない」と言われる方多いので。</p>
田中委員	<p>私もここに来て初めて知りました。</p>
佐野委員	<p>市から、そこまでは言えないけど、そういう団体がここにきているので、是非来てくださいと。そこから始まればいいのかないと。</p>
田中委員	<p>行政区では役員会がありますので。そこで話させていただきます。A Iなんて素晴らしいと思います。結構活用されている高齢者の方いらっしゃいます。</p>
橋本課長(事務局)	<p>地域の行政区活動といっしょで、盛んに集まりが濃いところは、その中で「あれやろう」「これやろう」と自発的に、逆にいうと市も知らない所で集まりが出来ているパターンも出来ていることもあります。でもなかなか三好丘は集まる場所自体もないので、民間とか、豊田市に出て行ったり、名古屋市のいろんなカルチャースクールにかなり行っているとは聞いています。</p>
佐々木委員	<p>この数字だけではなくて、トータルで皆さんが勉強していただければいいですから、そういう意味ではぜひ全憩いの家にオンラインでいろんな講座を配信するとか、そういうことをしてもらえば、ここまでこなくても、近くの憩いの家で勉強出来ますよね。</p>
田中委員	<p>役員会で報告させていただきます。</p>



橋本課長(事務局)	また、いきいきクラブの総会におじゃまして、お願いに行くかもしれません。
田中委員	どうぞお願いします。会長に報告しておきます。
座長（廣田委員）	<p>他どうでしょうか。</p> <p>それでは、御質問等ございませんようですので、本日の会議はこれで終了とさせていただきます。長時間にわたり、御意見等をいただき、ありがとうございます。それでは事務局へ進行をお返しします。</p>
橋本課長(事務局)	<p>貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。なお次回の推進会議につきましては、2月に予定しております。時期が近づいてまいりましたら、開催日時を決定しだい御連絡いたします。よろしく願いいたします。</p> <p>最後に付け足しですけれど、先程言ったように情報がなかなか思ったように伝わらないというところが課題と申し上げましたので、また次の会議の時でも結構ですので、「こうしたらいいのでは」という御意見がいただけると、実践して今後の広がりにつけて行きたいと思います。なにぶん、チラシとかデジタル化が進んでいまして、ポスターを作るのとか。そんな中で私もどちらかというとアナログ派なので、広報とかでも、コタツの上にぺらっと置いてあると見ますが、LINEで広報が「発行されました。」と来ても、既読とか見えておしまいになってしまうことが多いので。子どもの学校のPTAの会報もほとんど紙ではなくてデジタルになっているので、自分の子どものことなら、ホームページを見にいったりしますが、そうでないと、ただ単にデジタルのPDFがあっても見ないなど。そういう事情もある中で市もいろんなコンテンツを使って発信しているんですけど、公民館にポスターも貼ってはいけないという流れで、どうやって伝えればいいのか、どうやって知ってもらうのかというのが本当に課題なので。何かこうしたらいいとか、次回の集まりの時にでもアイデアをもらえると、東海学園の方もそれが課題だとは思いますが、教えていただけると助かります。その辺りを踏まえてよろしくお願いいたします。</p> <p>最後に礼の交換をお願いします。</p> <p>では御起立ください。一同礼。ありがとうございました。</p>